

平成 21 年 5 月 29 日現在

研究種目：若手研究 (B)  
 研究期間：2006～2008  
 課題番号：18720245  
 研究課題名 (和文) ウガンダ・アミン政権下における「大主教殺害事件」を巡る  
 occult 的言説の研究  
 研究課題名 (英文) Discourse analysis of the occult in the tragedy of an archbishop  
 and two ministers in 1977 during Amin's regime in Uganda  
 研究代表者  
 梅屋 潔 (Umeya Kiyoshi)  
 東北学院大学・教養学部・准教授  
 研究者番号：80405894

## 研究成果の概要：

「事件」と occult の噂について文献とインタビュー両面の資料から分析するために、国内外のライブラリーワークのほかウガンダ東部で計 3 回約 90 日間の現地調査を実施した。犠牲者のひとりである内務大臣 (西ナイル系アドラ民族) の出身地で「事件」をモチーフにした音楽の演奏とそれに合わせた踊りを録画し、歌詞を現地語で逐語的に書き起こしたうえで翻訳した資料 (テキスト) を作成した。あわせて「事件」とそれにまつわる occult についてインタビューを行い、同様にテキスト化した。内務大臣家所蔵のアルバムなど遺品の一部を電子化し、資料として保存した。悪霊 (jwogi) に憑依されたといわれる青年との面接や当該社会でこれまで報告のなかった仮面儀礼を観察するなど民族誌的発見も多かった。

## 交付額

(金額単位：円)

|        | 直接経費      | 間接経費    | 合計        |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2006年度 | 1,200,000 | 0       | 1,200,000 |
| 2007年度 | 1,000,000 | 0       | 1,000,000 |
| 2008年度 | 1,300,000 | 390,000 | 1,690,000 |
| 年度     |           |         |           |
| 年度     |           |         |           |
| 総計     | 3,500,000 | 390,000 | 3,890,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：アミン政権、occult、大主教殺害事件、アフリカ、言説

## 1. 研究開始当初の背景

申請者は 1997 年よりウガンダ共和国東部のアドラ民族 (Jopadhola) の民族誌的研究を行ってきた。なかでも死や病に直面した時に当該民族がもちだす観念とそれと関連して解決のためにいかなる対処を取るか、という点に観点を絞って研究を進めてきた。これは一般には一橋大学名誉教授長島信弘の用語を用いて「災因論」と呼ばれている。2000 年ごろから、アドラ民族出身の大臣がアミン政権時代 (1971-1979) において、アミン大統領に粛清された事件があったといわれていること、

それが地元では様々な occult 的観念をもって語られていること、さらには当該事件においてはもう一人の大臣と、ウガンダ教会の頂点に位置していたウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、ボガザイール大主教も同時に粛清されていることなどを見出した。当時の関心の一部は平成 14 年 1 月、『哲学』第 107 集、233-260 頁、慶應義塾大学三田哲学会、「民族誌家と現地協力者—ウガンダ東部パドラにおけるクラツォララ神父とオフンビ親子の場合」に公表されている。そこで、平成 14 年度に日本学術振興会特別研究員奨励費を得て、ア

ドラ民族出身の大臣に絞って噂を収集し、録音資料やそれを書き起こし翻訳したテキストなどの成果を得たが、フィールドワークの現場が電気などインフラの全くない農村であったために電子化作業で難航したことや、個人情報の公開に慎重を期したことなどから筋の通る民族誌として公開することは困難だった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、アフリカ研究のなかで近年唱えられている、近代化によって新たに誕生したエリートにつきまとうといわれる *occult* の噂の生成と流通の実態を具体的な事実関係をもとに解明することである。そのため鍵となる事件として民族問題、宗教問題、政治問題などが集約した事件、すなわち 1977 年にウガンダで起きた「大主教殺害事件」を取り上げ、その事件についての噂、それぞれの人物についてのバイオグラフィにかかわる言説を収集し、検討することでその仮説の当否を明らかにすることである。「大主教殺害事件」は、ウガンダ教会大主教（以下固有名詞をできるだけ伏せる 1722-1977）のほか、閣僚二人すなわち鉱物水資源大臣（1917-1977）、内務大臣（1932-1977）がオボテ前大統領と内通し、アミン政権転覆を図っているとしてアミン大統領に暗殺された事件であると一般には理解されているが、その一人（内務大臣）の出身地において調査を続けてきた私には、*occult* の噂がさまざまな形で入ってきている。それらの言説の *intensive* な分析を通して、ウガンダ、ひいてはアフリカの *occult* とポストコロニアルの実態を具体的事実から乖離しない形で解明することが可能となる。

## 3. 研究の方法

内外での文献調査と、フィールドでの聞き取りを中心として進める。

(1) 国内においては文献、マイクロソフトなどを収集するライブラリーワークを実施する。

(2) ウガンダ国においては、ウガンダ国にある *Makerere University* 図書館のほか、エンテベに設置されている文書館やトロロ県文書館での文書調査といったライブラリーワークを実施し、関連文献や文書を収集・蓄積する。

(3) ウガンダ東部および北部を中心としたフィールドワークを実施し、事件に関連するインタビューを実施して、現地語・英語・日本語のテキストを作成、電子化してデータベースを構築する。

(ただし (2) のうち、文書館における調査は、50 年を越えた文書を収蔵するウガンダの文書館には当該時代の文書は収蔵されて

いないこと、トロロ県文書館はまだ整備中で公開されていないことなどから実質的には実施せず、(3) のうち北部のフィールドワークは反政府軍 *LRA* の活動もあり自粛した。電子化については別途に触れたとおりである。

## 4. 研究成果

### (1) 1 年目

初年度の研究は、計画通りに進捗した。国立民族学博物館、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、一橋大学、埼玉大学、神戸大学、慶應義塾大学などの所蔵文献を渉猟し、蒐集した。中でも、部分的ではあるが、慶應義塾大学と国立民族学博物館が所蔵する「官報」*Uganda Gazette* のマイクロフィルムを閲覧、一部出力できたことは収穫であった（ただしアミン政権時のものは所蔵されていない）。現時点で国内での所蔵は確認されていない。また 8 月 8 日から 9 月 6 日まで実施したウガンダ国での現地調査においては、マケレレ大学社会科学部学部長のエドワード・キルミラ博士、ラファエル・オウオリ・ムバララ大学学長などに研究計画について助言を得ることができ、得るところが大きかった。また、トロロ県における現地調査では改めて旧知の人物（大主教とともに殺害されたアミン政権の内務大臣の子息）と面会して貴重な情報を得たほか、各種書類をスキャナーで取り込み、電子化して保存することに成功した。彼らの属す *Niirenja* クランのクランリーダーや長老に対するインタビューも実施し、系譜調査も行ったが、当該民族は「構造的健忘症」(*structural amnesia*) と呼ばれるほど過去の記憶が不正確であり、こちらは不首尾に終わった。また、デジタル・ビデオによる映像資料を持ち帰ることができた。映像には、トロロ県の人々がアミンと犠牲となった内務大臣を揶揄する *occult* を歌う流行歌と踊りも収められている。今後の課題は、文献蒐集を継続すること、また次年度の現地調査で民族誌資料を蓄積することはもちろんであるが、映像資料の編集、録音資料の書き起こしも含め、順次解明されたことを整理して発表にそなえることであった。

### (2) 2 年目

2007 年 8 月 7 日から 9 月 5 日までウガンダ国で行われた現地調査では、前年に引き続きドラ民族の *occult* 観念について集中的な継続調査を実施した（インタビュー結果はすべて英訳済みだが、電子化は完了していない）。また特筆すべき成果として、悪霊 (*iwogi*) に憑依されたという青年と面接し、そのインタビューを映像・画像に収めることができたことで、*occult* 理解の一助となる資料を得ることができたことがあげられる。さらには前年

の調査同様、現地に伝わる音楽を演奏する場を設定して調査し、アミンや犠牲となった大臣のことを歌った歌を含む数曲を録画した（そのなかには occult 的な歌詞も散見される）。その過程で、前年とは異なる楽団の参加を見たところから、新しい楽曲の記録ができたほか、ンダラ (*ndara*) という巨大な木琴の演奏や、仮面が登場する場面があるなど民族誌的発見が多かった（ンダラは、アルル民族 (*Alur*) などにも共通のものがあるというが、アドラに仮面があるという報告にはこれまで触れたことがなかったので、現在のところ近年の発見か近隣民族からの伝播であろうと推測される）。このように、アドラ民族の occult をインタビューとそれが表現される演劇の場で調査する一方で犠牲者となった内務大臣についてのバイオグラフィ的情報についても家族や近い人々からのインタビューを継続して資料を蓄積している。子息などを再訪し、故人の事跡について新しい資料が得られただけでなく、身分証明書（故人本人のもの1点、母親のもの1点）や日記（3冊）、アルバム（10冊）などの貸し出しを受けた。これら故人の横顔を知るうえで貴重な資料は複写のうえ、平成20年度8月から9月にかけて実施予定の現地調査で再度訪問し、電子化したものとあわせて返却する約束を結んだ。

### (3) 3年目

研究期間の最終年度に該当する本年度は、これまで蓄積した言説録音資料（現地語版・英語版）について、順次翻訳作業と電子化作業が進められた。昨年度から懸案の当該内務大臣家所蔵のアルバム、身分証明書など遺品については、渡航前に業者に委託し、高精度のスキナーでデジタル化し、現地で無事返却した。これらの画像は現地の英字新聞社のファイルにも保存が期待されていない貴重なものである。2008年8月6日から9月6日にかけてのフィールドワークを中心に、現地助手の協力のもと、一時資料は着実に蓄積された。昨年度同様、現地で歌われている「大主教殺害事件」をモチーフにした音楽の新しいヴァージョンを多数、録音・録画に成功し、その歌詞の書き起こし・英訳作業は完了している。これまで蓄積した言語資料（現地語版・英語版）についても、順次翻訳作業と電子化作業が進められた。アフリカの妖術研究の具体的事例としても、ウガンダ現代史の史資料としても、これらの資料的価値は明らかだが、手書きの現地調査資料が順調に蓄積されるにつれ、当初の予想を上回る電子化のための時間と労力が必要であることが明らかとなった。データベースとそれにもとづく論文の公開には地道な整理作業が今後の課題として残っている。課題となっていた残り2

人の犠牲者の遺族および近隣民族における類似の資料収集と英国国教会およびイタリア・ヴェロナ由来の *Comboni Mission* における資料の有無についての確認は、模索の域を出なかった。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計4件）

①梅屋 潔「ウガンダ・パドラにおける『災因論』—現地語 (*Dhopadhola*) 資料対訳編」『人間情報学研究』第14巻、31-42頁、東北学院大学人間情報学研究所、2009年、査読有

②梅屋 潔「ウガンダ・パドラにおける『災因論』—*jwogi, tipo, ayira, lam* の観念を中心として」『人間情報学研究』第13巻、131-159頁、東北学院大学人間情報学研究所、2008年、査読有

③梅屋 潔「アチョワ事件簿—あるいは「テゾ民族誌」異聞」『アリーナ』第4号、328-346頁、中部大学国際人間学研究所、2007年、査読無

④梅屋 潔「酒に憑かれた男たち—ウガンダ・パドラにおける『問題飲酒』と妖術の民族誌」『人間情報学研究』第12巻、17-40頁、東北学院大学人間情報学研究所、2007年、査読有

〔学会発表〕（計2件）

①梅屋 潔  
「二つの政権を表象する人格と妖術—ウガンダ・パドラにおける *Postcolonial Elites* の事例—」第129回東北人類学談話会+第1回東北大学東北アジア研究センター人類学セミナー2009年4月13日

②梅屋 潔「*Postcolonial Elite*の『身体』『人格』そしてオカルト—ウガンダ・パドラの実例を通してみた—」人間文化研究機構国立歴史民俗博物館個別共同研究「身体と人格をめぐる言説と実践」2006年6月18日、於国立歴史民俗博物館

〔その他〕

①「ウガンダ・パドラにおける『災因論』—*jwogi, tipo, ayira, lam* の観念を中心として」アフリカセミナー（山形孝夫会長）「アフリカの魂・PARTIV」（於仙台戦災復興記念館）における講演。2009年3月12日。

②「酒に憑かれた男たち—ウガンダ・パドラにおける『問題飲酒』と妖術の民族誌」アフリカセミナー（山形孝夫会長）「アフリカの魂・PARTIV」（於仙台戦災復興記念館）における講演。2009年3月12日。

リカセミナー（山形孝夫会長）「アフリカの魂・PARTⅢ」（於仙台国際センター）における講演。2008年2月21日。

6. 研究組織

(1)研究代表者

梅屋 潔 (UMEYA KIYOSHI)

東北学院大学・教養学部・准教授

研究者番号：80405894

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし